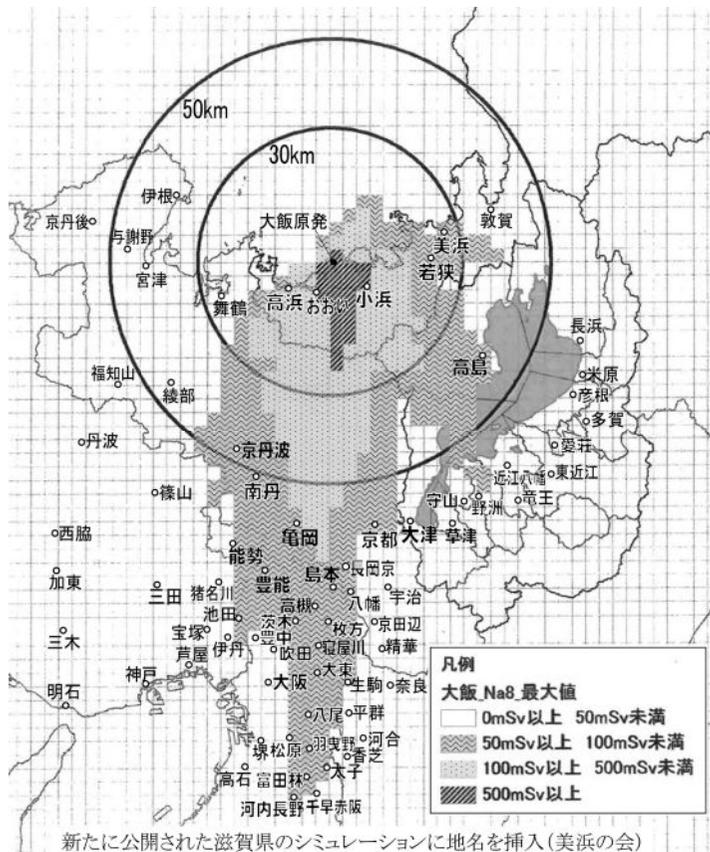


避難計画では住民の安全は守れない 大飯原発の再稼働を止めよう！

神戸市にプルーム到達「最短で2時間」(兵庫県知事)
2時間以内にヨウ素剤の配布・服用が可能なのか！？



ヨウ素による甲状腺被ばく(1歳児・1日): 若狭・京都北部 500mSv 以上
京都 30~50 km圏内で 100~500mSv / 大阪南部でも 50~100mSv
(IAEAのヨウ素剤服用基準 50mSv)



発行 プルトニウムなんでもいらないよ! 美浜 2014.2.21 TEL 06-6367-7213 3-116市民プラザ内 制作 美浜 専攻

福島原発事故から3年。多くの避難者が困難な生活を強いられています。それにもかかわらず、原子力規制委員会は、再稼働審査を急ピッチで進めています。3月中旬には1~2基の原発に絞って「優先審査」を行い、4月末頃には審査を終了しようとしています。政府は原発推進を強力に推し進め、夏前にも再稼働させようとしています。大飯原発も早期の再稼働が狙われています。

他方、福島第一原発の汚染水漏れは深刻な状況です。昨年10月の高濃度汚染水漏れについては、その原因さえも分かっていません。規制庁も政府も汚染水対策はそこのけで、再稼働に邁進しています。

そして、「再稼働と防災計画は車の両輪」としながら、避難計画は破綻しています。私達は、大阪・兵庫・京都の皆さんと一緒に、関西広域連合や各自治体、水道事業団への申し入れ、避難中継所の視察、バス会社への問い合わせ等を行ってきました。

早期に避難することになっている要援護者の避難計画は一切できていません。避難所は、一人3.3m²という単純計算で割り出しただけです。安全な水の確保もありません。琵琶湖が汚染されれば放射能混じりの水を飲むこととなります。(裏面参照)

さらに、原発事故の被害は30km圏内にとどまりません。30km圏外は避難先となっていますが、事故が起これば被ばくは避けられません。福島原発事故の検証もなされていません。再稼働反対の声を強めよう。自治体等に働きかけよう！

3月20日15時 ついに結審！ 関電相手の大飯原発仮処分裁判(大阪高裁)
傍聴は原告のみです。終了後の報告会にご参加ください。AP大阪(淀屋橋)



これが避難計画の実態です



避難元	30 km圏内 (UPZ) 人口	広域避難先	
福井	高浜町	11,000	兵庫
	おおい町	9,000	
	小浜市	31,000	
	若狭町	16,000	
(福井合計)	(67,000)		
滋賀	58,000	大阪・和歌山	
京都	128,500	兵庫、徳島	
	253,500		

[関西広域連合の計画]

■ の被ばく線量予測 7日間の最大値 1歳児の甲狀腺		高浜原発	大飯原発
	神戸市	53.7	62.1
	豊岡市	50.9	50.2
	篠山市	167	80
	丹波市	81.8	106

※単位はミリシーベルト

兵庫県シミュレーション結果
受け入れできるの？

安全な水の確保は？

ヨウ素の除去 30~50%

琵琶湖が汚染された場合、浄水処理をすること。しかし、放射性ヨウ素の除去はわずか30~50%です(大阪広域水道事業団)。水の備蓄もわずかしかなく、配布方法も考えていません。結局、放射能混じりの水を飲むことになります。

原発事故と地震・台風等の複合災害は？

考慮していない

[関西広域連合]

地震・津波で原発事故が起こることさえ想定していません。「検討しないとは言っていないが、台風のような風水害まで考慮せよと言われれば違和感がある」として、具体的には考慮していません。昨年の台風18号で、若狭町や京都府でも浸水の被害で孤立する集落がありましたが、それらも検証していません。雪の多い若狭地方・京都北部ですが、福井県の避難計画は春・秋の昼間に起きることしか想定していません。

要援護者の避難は？

何も決まっていない

[関西広域連合]

病人や高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦さんなどの要援護者は、早期に優先的に避難することになっています。しかし、避難の計画は何も決まっています。要援護者の把握も、移動手段も、福祉避難所等の避難先の選定もまだとの回答です。「常識的に考えれば受け入れ先にほとんど空きはない」ことも認めました。

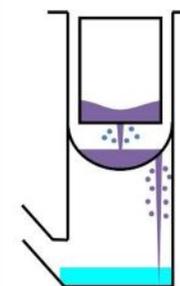
メルトダウンやメルトスルーを前提にした再稼働審査

20分で炉心溶融 「避難できない」(規制庁)

再稼働の審査で、関電など電力会社は重大事故のシナリオとして、炉心溶融が始まっても圧力容器に水を入れて冷やすことなく、全ての燃料が溶融し、圧力容器の底を突き破って格納容器に落下させるという恐ろしいシナリオを描いています。事故から約20分後に炉心溶融が始まり、メルトスルーは事故から約90分後に始まると関電は解析しています。

一体いつ避難するのでしょうか？3月4日の政府交渉で規制庁は、「避難できない」と答えました。しかし、再稼働と防災計画は「法的にリンクしていない」と無責任な発言です。

- 5km圏内の住民は、20分後には既に避難の途中とのことですが、「避難できない」。
- 30km圏内の住民は、炉心溶融が起きて、まだ「避難の準備」。0.5mSv/時という高い線量になって「避難の開始」。たっぴり被ばくせよというものです。住民の安全は守れません。



関電資料3-2より
2013.10.1
溶融燃料は全て
落下させる

☆資料等は美浜の会HPに掲載(「美浜の会」で検索)。ミニ学習会など声をかけてください